

5-4 南部土木事務所管内の 河川事業について (令和2年1月30日)

これまで道路、下水道、開発、河川等を担当されてきた
南部土木事務所 河川砂防課 河川第二係長 原田浩次氏に
南部土木事務所管内の河川事業についてお話を伺った。

<河川の印象>

・簡単だが難しい。高いところから低いところへ流れるという意味では単純だが、大雨が降るとどれだけ降るか分からないので、難しいと感じる。

<最近の河川をとりまく状況>

・昔と違い、蛇口をひねれば水が出る。ありがたみがなくなって、近くに川が来てもらっては困るという住民さんもいる。

・近年はゲリラ豪雨が頻発している。

1.3倍、1.5倍くらいゲリラ豪雨になる割合は上がっているという話を聞いたこともある。

<河川の整備に関するテーマ>

・南部土木管内には44河川があり、延べ延長166km

(1日一人が8時間歩いて、5日くらい歩き続ける程度の長さというイメージ)。

・道路だと壊れていたらすぐ住民さんが気づくが、河川は施設が壊れているかどうかわかりにくい。

・年1回、河の草刈りは業者をお願いしており、除草だけでかなりの費用を使っている。

・草刈りしてほしいという要望も多い。河川愛護、ボランティアに協力してもらっているところもある。

道路と違い、住民さんにとってあまり河は近づくことがなく、どこで改修をやっているのかわかりにくい。南部地域では中ノ井川、葉山川、金勝川、北川、新守山川等で河川改修の事業をやっている。国交省から補助金をもらって実施している。

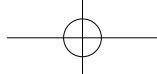
・マイアミ浜では浜崖(浜が欠ける)が発生しているので、浜を再生するような事業も行っている。

・木浜では、水質浄化を目的にヨシを生やすということも行っている。

・オオバナミズキンバイ、オオキンケイギク等の外来の植物も課題となっており、刈り取りと焼却処分を行っているが、費用がかかり課題も多い。

・駆除するべき種がいる一方で貴重な植物もあり、保全しなければいけない。水草ムサシモも見つかった。

・ゴミの不法投棄があり、河川管理者として処分する必要があることもある。



<質疑応答>

Q：天井川で改修が必要な河川はどれくらい？そのうちどれくらい改修が進んでいる？

A：天井川の改修工事として工事をしている訳ではなく、不明である。

Q：改修する際、何に時間がかかる？お金がかかる？

A：用地買収を行うことにも時間を要することがある。

Q：貴重な生き物を守ることができるように事業を行うために必要だと思うことは？

A：木を切っても良いか等については、地元にも打診するようにしている。また、生物環境アドバイザーという制度もある。しかし大きな事業だけだという限界もある。工期のなかで事業を完了させる必要があるので、注意深く進めないとな事故につながる。

Q：浚渫について、昔は川底の土砂を根こそぎ取り除いていたように思うが、今は、一部残しているのでは？環境にとっては良いと思うのだが、配慮しているからなのか？

A：処理にお金がかかる面もあるので、工夫して行っている。

Q：野洲川、中洲の親水公園では、「～はしてはいけません。」という張り紙があったが、水辺の利用を進めるのはやはり難しいのか？

A：親水性も重要なテーマであり、川づくりを地域の方と意見を交わしてやっていく必要があると思う。例えば、階段をつくるのは河に親しむうえではよいが、一方で危険も伴う。河川敷は基本的に危険を伴う場所ではあるので、一定の条件を課して使用を認めている場合もある。国交省も管理責任を問われることとなるため、やむを得ず行っているのだと思う。

Q：草津用水（琵琶湖から水ポンプアップして利用）を田んぼの時にしか流してもらえない。

A：地域の人からすると水が常に流れていると（親水面で）良いとは思いますが、農業の人たちが費用を負担しているので、今は農業用にしか使えないということになっているのではないかと。維持用水を減らしておくのと、大雨のときには助かるという面もあり、川の水の管理は難しい。

